

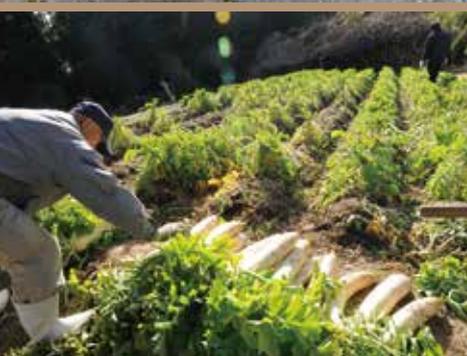
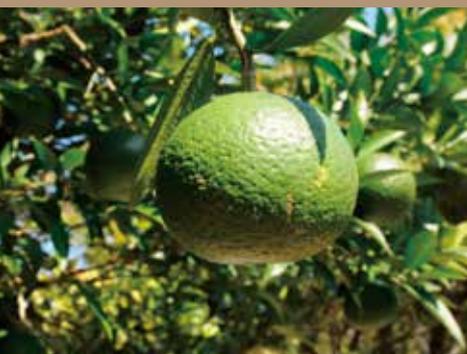
# ちいきの大学

## Contents

- 井ヶ谷町地区役員との懇談会 ● 大学連携協議会
- 高校訪問授業 ● 豊田市との共催公開講座
- 地域連携フォーラム 2013
- リソースルーム講演会 ● 愛知県内教育委員会地域教育連携推進協議会
- 刈谷市南部生涯学習センターとの連携 ● イルミネーション点灯式
- インフォメーション ● 地域連携についてQ&A



愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



## ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 都築 繁幸

JR 刈谷駅の東 600 m ほどの小高いところに、昭和 31 年（1956 年）6 月 25 日未明に列車から転落して亡くなった箏曲家宮城道雄氏の供養塔があります。盲人参拝者のためにと、点字の説明が刻まれた副碑が脇にあります。宮城道雄氏は、1894 年に生まれ、8 歳で失明し、1919 年、作曲家としてデビューし、1929 年に発表した「春の海」は、フランス人バイオリニストと競演され、世界的な評価を得ました。西洋的な思想を創作に取り入れ、自作や古典曲の演奏を行いながら、楽器の改良や五線譜を採用するなど教育者としての功績もあり、東京音楽学校（現、東京芸術大学）、東京盲学校（現、筑波大学附属盲学校）で教鞭をとっています。

本学は、障害者にやさしい大学づくりをめざし、学内には誘導ブロック、スロープを、講義棟には障害者用トイレ・エレベータや障害者専用スペース等を整備し、全ての学生が学びやすい環境を創造しています。

## 井ヶ谷町地区役員との懇談会

9月18日(水)午後6時半から、本学第一福利施設で井ヶ谷町地区役員との懇談会が開催されました。会には、地区会から野々山利維地区長、加藤賢次市議、黒川智明市議ら、大学から松田正久学長はじめ役員部局長・課長ら、合わせて49名が参加しました。



都築繁幸理事が、本学と井ヶ谷町との関連情報を紹介、併せて事前にいただいた4件の要望に大学としてできる限り協力したい旨回答しました。

- ① 町内活動への積極的な参加について
- ② 災害時の避難場所としての協力について
- ③ 自動車の安全通行について
- ④ 敷地内全面禁煙について

その後の意見交換の場で、学生への周知方法等について質問がありました。情報については、学生全員に学務ネットで提供しているだけでなく、指導教員・関係部署を通じて周知しており、今後もより一層周知徹底に努めたい旨、説明がなされました。

## 大学連携協議会

10月11日(金)午後2時から名古屋市女性会館にて大学連携協議会が開催されました。名古屋市生涯学習推進センターと大学との連携について協議する会で、参加は本学を始め、国公私立大学の22大学でした。

主催者挨拶で、平成25年度をもって名古屋市生涯学習推進センターは閉館し、大学連携講座の事業は名古屋市教育委員会生涯学習課で継続実施されると話されました。



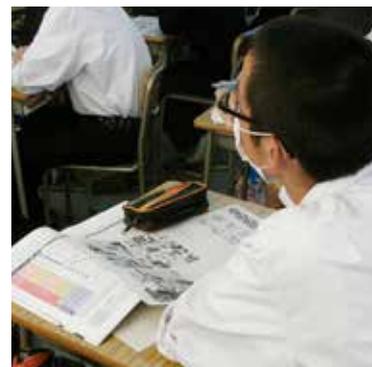
本学は教育大学の特色を生かして「親子で学ぼう！」をテーマに6～7月にかけて8回講座を開設しました。新美南吉の童話、タンポポから見た生物多様性、ものづくり、手話と多様な内容で小学生の親子に分かりやすく解説しました。

今後の大学と行政の連携についての協議の中で、大学が行政に期待している事柄は、地域の活性化・地域貢献や大学の広報であり、市民が大学に期待していることは健康づくり・医療関係の情報、歴史や音楽、スポーツなどであることが提示されました。

## 高校訪問授業

高校生が、額を寄せ合い小声で話し合う手元には、青物乾物尽絵考（あおものかんがつじんえかんがえ）という江戸時代の「判じ絵」のプリント。松が燃えている前で男が号令をかけているのは、松を「焚く」よう命令しているので「松焚け」＝「松茸」。他に江戸時代の遊びの本・昔話絵本などを紹介し、子ども文化を歴史的に考える意義について話がありました。昨年10月17日、国語教育講座の有働 裕教授による常滑高校での高校訪問授業です。

高等学校と愛知教育大学との連携の一つとして行われている高校訪問授業は、高校生の大学に対する理解を深め、進学意欲を高めるとともに、今後の学習意欲を喚起することを目的としています。



実施期間は、毎年6月1日～11月の上旬の間、受付期間は、4月1日～8月31日の間で、実施希望日の2か月前までに愛知教育大学地域連携センターにfaxにて申し込んでください。

fax: 0566-95-0035

## 豊田市との共催公開講座

11月17日(日)午前10時から豊田市の崇化館交流館で本学と豊田市共催公開講座「発達障害の理解と支援」が開催されました。希望者が多く51名の方が参加されました。講師の都築繁幸理事の指導を受けているNPO法人の方たちは「脳科学から考えられたLD（学習障害）疑似体験」で参加者と一緒に活動しました。



学習障害とは、知的に遅れはないが「聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する」の能力の中で特定のものの習得が著しく困難な場合をいいます。学習障害の8割を占めているものが「ディスレクシア」発達性読み書き障害です。脳の仕組みが異なり、学び方・認知の仕方が違うと考えられています。一人一人の特性や教育的ニーズに合わせた指導が必要です。そして学ぶためのアクセスが必要です。

学習障害は「学びの障害」ではなく、「学び方の違い」ととらえると良いと示されました。

## 地域連携フォーラム 2013

11月9日(土)午後1時より、地域連携フォーラム2013が行われ、学内外からの参加をいただきました。今年は学生の地域での貢献活動を中心として、NPOや企業の貢献活動の話も合わせて伺い、今後の本学の地域との連携活動のあり方を展望することを趣旨として行われました。

学生の活動としては、子ども向け人形サークル「じゃんけんぼん」の加藤美有さん、マジックサークル「Shuffle」の小林正和さん、手話サークル「くるくる」の安木梓さんと内田ちはるさん、音楽ボランティア団体「輪音」の畑中みどりさんに報告をしていただきました。いずれの報告においても、特技などを活かした多くの人たちの為になる活動を窺い知ることができました。また、特別演奏として三線サークル「てんつく」の長谷川裕紀さんによる生演奏を披露していただきました。



NPOの活動として「スペシャルオリンピックス(SO)日本・愛知」専務理事の近藤義明さんのお話を伺い、知的しょうがい者のスポーツ活動を支援するSOの活動の理解を深めることができました。企業の貢献活動として元トヨタボランティアセンター長の鈴木盈宏さんの話を伺い、初代センター長として、トヨタ自動車の初期のボランティア活動における苦勞などを窺い知ることができました。



報告後は、発表者の方々と本学教員によるパネルディスカッションが行われました。学生の貢献活動をいかにサポートできるかを中心に有意義な討論が行われ、今後の本学の地域貢献活動の一翼を担う学生の活動支援の重要性を再認識する良い機会となりました。



## リソースルーム講演会

外国人児童生徒支援に関する恒例の講演会が12月14日(土)に開催されました。台風の影響で延期になった講演会でしたが、60名を超える方々にお集まりいただき活発な質疑応答が行われました。今年度は、「外国にルーツを持つ子供たちの未来をともに考える」というテーマの下、二部構成で行われました。第一部では、宇都宮大学教授の田巻松雄先生から、「外国人児童生徒ー将来の『下層』か『グローバル人材』か」という講演をしていただきました。第二部では、本学の卒業生、在校生から「ボランティア経験を通して考える子供たちの未来」というテーマでの発表がありました。

「外国人児童生徒を軸とした多文化共生社会を目指す教育支援の構築」事業は今年度が最終年度となります。これまでの活動を振り返り、来年度から始まる新しい事業への示唆をいただける講演会となりました。寒い中お集まりいただき、ありがとうございました。



## 愛知県内教育委員会 地域教育連携推進協議会

12月18日(水)午前10時から愛知県内教育委員会との地域教育連携推進協議会が開催されました。

愛知県教育委員会の笹尾幸夫学習教育部長を始め11名の教育委員会関係者の皆様と、本学の地域連携センター長の都築繁幸理事、本学関係者18名の合計29名が参加しました。

教員養成と採用そして研修の連携を強化し円滑にするために活発な協議が行われました。主な意見は次のとおりです。

- ◆教育センターや校内研修で実施されている研修内容の情報提供及び、研修講師の依頼
- ◆初任研や5年研だけでなく、若手教員研修の充実
- ◆学校現場の厳しい現実をしっかりと学生たちに理解させるとともに、心身ともにタフな教員を養成するため、大学の初年次教育・キャリア教育・教職実践演習の充実や学外体験活動の増加等、さらなる大学と教育委員会・学校現場との連携強化



## 13年間に亘る、刈谷市南部生涯学習センターとの連携による取り組み

地域連携センター兼担任教員／美術教育講座 教授  
樋口 一成

美術教育講座工芸研究室では、1997年度から地域の方々や機関と連携しながら、子どもたちがものづくりを体験する活動に数多く取り組んでいます。

その中で最も長期間に亘って継続している取り組みが、刈谷市南部生涯学習センター（たんぼぼ）と連携して実施しているものづくり体験講座です。刈谷市南部生涯学習センターが誕生した2001年度から毎年6～8回、美術の学生たちが主となって、刈谷市在住の小学生を対象としたものづくり体験講座を実施しています。現在、この活動はものづくり体験教室開催事業として実施しています。これまでに、「楮（こうぞ）と色つきパルプを使って、きれいな絵ハガキをつくらう！」「身近な材料で万華鏡をつくらう！」「フェルトでつくる～オリジナル・ポシェット～」「からくりおもちゃをつくらう！」「草木と泥でハンカチとくつ下を染めよう！」「あき缶でつくる～歩くロボット～」「ガラスでつくらう！～X'masのかざり～」など、素材も内容も多彩な講座を実施してきました。

2001年度から今年度までの13年間で、83講座を実施しました。これらの講座には、のべ864名もの刈谷市在住の小学生が参加しています。また講座の実施にあたっては、のべ410名もの本学学生が参加協力してくれました。

刈谷市南部生涯学習センターからお話をいただいて始まった活動でしたが、本学学生たちの学びの場ともなっている活動であることから、13年間も継続することができたように思います。今後、どれだけ継続できるかわかりませんが、この連携を大切にしていきたいと考えています。毎年継続実施している本活動に、美術以外の学生の皆さんの参加もお待ちしております。



2013年度の講座より

上：「しぼり染めでハンカチを作りましょう！」（6／22）

下：「和紙をつかって、折りたたむことができる、あかりをつくらう！」（10／19）

## イルミネーション点灯式

刈谷駅前の冬の恒例イベントであるイルミネーションの点灯式が11月23日(土)に刈谷駅前北口広場で行われました。

本学と刈谷市刈谷駅前商店街振興組合、刈谷商工会議所及び刈谷市の連携・協力によって実施されているもので、今年で8回目になります。

今年は「童話」をテーマに美術科学生・院生の56名で制作にあたりました。「ブレーメンの音楽隊・浦島太郎・オズの魔法使い・アラジンと魔法のランプ」の四つの童話をモチーフにしてイルミネーションができました。

点灯式には松田正久学長も参加し、学生たちと声をそろえて「愛教大がんばるぞー！」と氣勢を上げて、式を盛り上げました。カウントダウンでスイッチが押されてライトが一齐に点灯し、駅前商店街の通りを照らし出しました。1月17日(金)まで点灯されます。



## Information

### ◆入学試験

前期 平成26年2月25・26日

後期 平成26年3月12日

### ◆卒業式

平成26年3月24日

### ◆入学式

平成26年4月4日

## 地域連携についてQ&A

Q. 公開講座を受講したいのですが、いつ頃に公開講座の案内や申し込み等が発表されるのですか？

申し込み際の留意点も教えてほしい。

A. 4月に公開講座案内パンフレットが発行されます。同時に大学の公開講座のホームページにも掲載されます。

f a xまたは郵便で希望講座を仮申し込みしてください。申し込みは先着順で受け付けています。

f a x : 0566-95-0552

郵便 : 〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学地域連携センター 公開講座担当

\*問い合わせ先

愛知教育大学地域連携センター

t e l : 0566-26-2129